

思考の



エッセイ

2025. Mon.
3/3—3/21

Fri. 時間 / 10:00-17:00 休館日 / 日・祝
※初日 3/3(月) は 12:00 開館

会場 / 東京大学 本郷キャンパス
法文2号館1階 展示スペース「文学部の扉」

▼会場アクセス



主催：東京大学大学院人文社会系研究科 文化資源学研究室 企画・運営：文化資源学フォーラムの企画と実践 履修生 お問い合わせ：cr.forum.2024@gmail.com

協力：東京大学文学部・大学院人文社会系研究科 英語英米文学研究室／国文学研究室／スラヴ語スラヴ文学研究室

2025 年 3 月、東京大学 法文 2 号館の 1 階にオープンする新たな文学部の拠点「文学部の扉」は、文学部で行われる研究の内容や意義をより広く知ってもらうことを目的に設置された企画スペースです。第 1 回目となる企画では、「あそび」をテーマに、文学部における研究の視点や思考の軌跡を体験する展覧会 [思考のアトリエ「あそび」を通してみる文学部] を開催いたします。

「あそび」とは？

一知能を有する動物が、生活的・生存上の実利の有無を問わず、心を満足させることを主たる目的として行うもの
——歴史家・ホイジンガ（オランダ）

人間に、「あそび」は必要だろうか。

必要ないのかもしれない。

すぐに実益をもたらさない行動は、すべて「あそび」と言えるからだ。

それでも、すべての子どもは「あそび」を経て大人になる。

大人になっても、何らかの方法で、心を満たすための「あそび」をしているはずだ。

ふとした「あそび」こそが、新たな出会いや発見を生み出すこともあるだろう。

新たな「あそび」を創出する人間も、「あそび」を芸術の域に昇華させる人間もいる。

たかが「あそび」と思ふなかれ。

そこには、必要ないのにあそんでしまう、人間の純な欲望が映し出される。

「あそび」の展開する先は意外に広く、そしてエネルギーで、夢中なのだ。

この展示では、文学、演劇、観光など、「あそび」と呼ばれ得るものを研究対象とした、文学部の研究を展示する。そこでは、時代や時を飛び越えて、リアルな人間の姿がさまざまなに映し出される。

研究成果は「ことば」としてこの世に現れるが、この展示では、それを思い切って拡張して、「おと」や「かたち」も備えた作品にしてみた。横にまわって、奥をのぞいて、裏に寄り道して、「あそび」をみてみよう。カギとなる研究の目線を借りて、少し遠くから、少し高くからみてみれば、なんてことなかったはずの「あそび」が、想像しえない奥行きを伴って立ち現れる。その奥行きは、研究という真剣な営みをとおしてしか得られない唯一無二のものであり、知っているつもりを超えて、人間を知るといふ、文学部の価値そのものだ。

展示する3つの「あそび」

演劇

チェーホフ「かもめ」

合巻

『修紫田舎源氏』

観光

マナーハウス

入口

opening event

3/3 (月)

下記のとおりオープニングイベントを行います。

シンポジウム

「思考のアトリエ」オープニングイベント

時間：11：30～12:30

会場：法文 2 号館 2 階 1 番大教室

〈登壇者〉

東京大学 文学部・大学院人文社会系研究科

スラヴ語スラヴ文学研究室

榎岡 求美

文化資源学研究室

小林 真理

*終了後、展示会場「文学部の扉」にてテープカットを行います。

会場アクセス

東京大学 本郷キャンパス

法文 2 号館 1 階展示スペース「文学部の扉」

(東京都文京区本郷 7-3-1)



展示監修

東京大学 文学部・大学院人文社会系研究科

佐藤 至子 / 国文学研究室 教授

榎岡 求美 / スラヴ語スラヴ文学研究室 教授

新井 潤美 / 英語英米文学研究室 教授

展示会場：法文 2 号館 1 階「文学部の扉」